

当社では「安全と健康を守ることはすべてに優先する」との基本理念のもと、設備の本質安全化・危険予知活動・疾病予防活動・安全衛生教育の充実などに継続して取り組んできました。また、2001年度より「労働安全衛生マネジメントシステム」を導入し、現在さらなる安全衛生管理レベルの向上を目指して、システムの強化・定着をはかっています。

2005年度全社安全衛生管理方針

1. 危険感受性と危険対応能力・回避能力の向上
2. 高リスク設備・作業の日常安全対策の推進及び防災管理対策の推進
3. グループ会社・請負会社・派遣会社の従業員に対する安全管理・指導の徹底
4. 健康管理の充実
5. 交通安全対策の推進

リスクアセスメントの取り組み

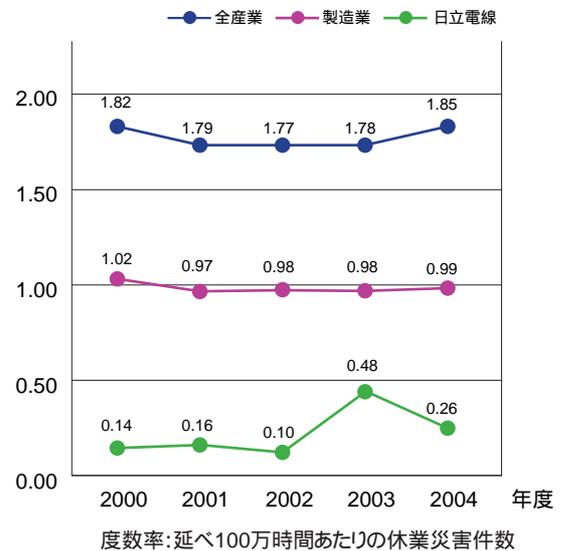
オペレーター自身が、作業を行う上での様々なリスクを抽出し、その情報を職場内で共有することを目的に、2004年度よりQCサークルなどの小集団活動をベースとした「全員参加リスクアセスメント活動」を推進しています。本事例は、中央労働災害防止協会発行の安全情報誌「働く人の安全と健康」の2005年4～6月号に掲載され、日立労働基準協会主催の安全活動事例発表にも紹介されるなど、社外からも強い関心が寄せられています。

安全成績

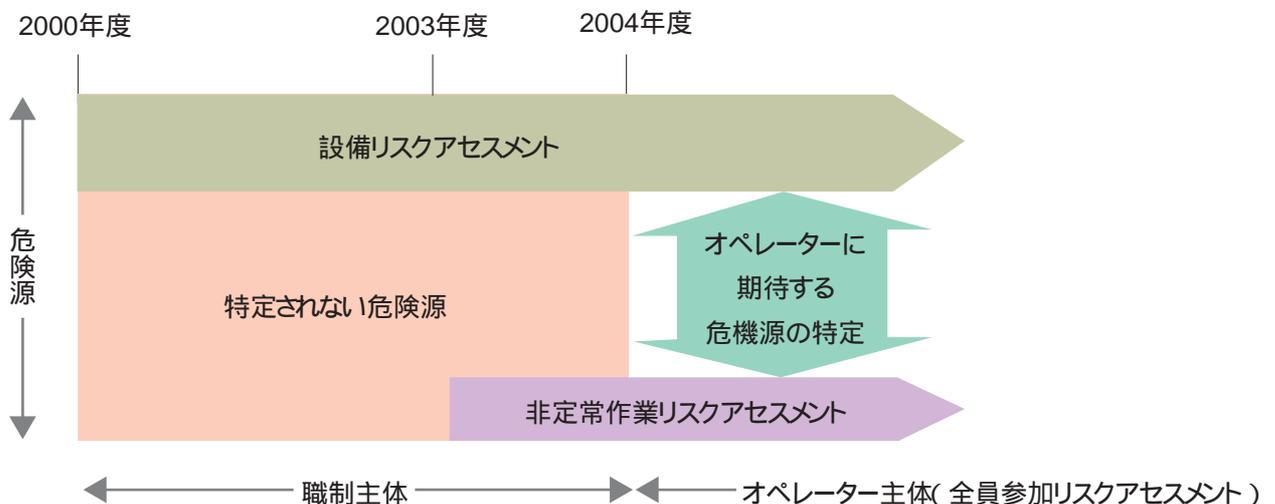
これまで長年に渡り、積極的に労働災害撲滅に取り組み、一定の成果を上げてきましたが、2003年に危険予知不足による災害が多発したことから、設備中心のリスクアセスメントを見直し、実際に作業を行うオペレーターが主体となる「全員参加リスクアセスメント」を実施し、作業に潜むリスクの認識と低減に取り組んでいます。

また、特別な装置によるケガの擬似体感教育、集中KYTによる危険感受性向上教育など、安全教育の充実をはかり、災害ゼロを目指しています。

災害度数率



当社のリスクアセスメント実施経過



## 危険感受性向上教育

危険に対する慣れや知識・経験不足による危険予知能力の低下が懸念される中、危険感受性の向上に加え、実際に危険から回避、対応する力を身に付けていくために、KYTおよびビデオ視聴による危険感受性向上教育、特別な装置を使用した体感教育など、安全教育の充実をはかっています。



体感教育装置例

## 防災対策

2003年から毎年12月を「防災強調月間」として全社的に防災意識の啓蒙、防災管理体制の整備に取り組んでいます。9月には、大地震を想定した避難訓練を工場毎に実施しています。

また、年間を通じて、工場自衛消防隊による各種訓練、定期的な職場毎の初期消火訓練、異常事態想定訓練など、万一来に備え、被害を最小限とするための訓練・教育を継続的に実施しています。



工場自衛消防隊訓練風景



危険感受性向上教育風景

## 交通安全

警察関係者を講師に招聘した交通講演会、新規マイカー通勤者教育、SDカー教育など、交通安全意識の高揚と運転マナーの再確認などを目的に、継続的に実施しています。



SDカー受講風景

## 健康

30歳・35歳到達時および40歳以上の人間ドック受診制度を確立し、健康管理の充実をはかっています。また、生活習慣病の予防活動として「高血圧」「糖尿病」「高脂血」「腎症」の疾病予備群に対する定期的な保健指導を実施しています。メンタルヘルスに関しては、日立グループ内の医療機関やEAPセンターと連携し、相談体制の整備、管理者教育などを積極的に推進しています。